

大嶺小学校での畜産ふれあい体験学習

～2007/10/16 わくわくいきいきモーモースクール～



やまぐち畜産ふれあい体験交流推進協議会
社団法人 山口県畜産振興協会
美祢市立大嶺小学校

はじめに

平成 17 年度に設立された「やまぐち畜産ふれあい体験交流推進協議会」(社団法人 山口県畜産振興協会内) は、社団法人中央畜産会から地域畜産ふれあい体験交流推進事業を活用して、畜産農家が自発的に消費者や体験希望者を受け入れられる官民連携した体験活動支援体制を確立することを目的に、公共牧場や民間の牧場でのふれあい体験メニューを企画し、一般公募による体験や料理教室実践を通じてその手法について協議を重ねてきました。

ふれあい体験に対する参加者の反応は概ね好評で、メニューの工夫次第で一般消費者への農業・畜産の理解や食育につながる事が確認できたものの、教育関係の委員からは、学校の子ども達をとりまく家庭環境を見た時に、そのようなイベントに無関心な家庭やその子どもこそが問題であることが課題として提示されました。

取り組み 3 年目を迎えた平成 19 年度は、多くの子ども達に等しく「ふれあい体験」をしてもらう一つの手段として、学校に家畜を連れて行っでの体験、題して「わくわくいきいきモーモースクール」を企画・実践しました。場所は、美祢市立大嶺小学校です。1 年生・5 年生を対象に、畜産とはどのような仕事なのか、牛肉や牛乳がどうやって生産～販売されるのか(社会科)、牛にふれあい、畜産農家と交流し(体験)、また、生産された畜産物を自ら調理・加工すること(家庭科) を通して、畜産への関心を高め、食べ物ができるまでを知り、生命の尊さを伝えることを目的としました。

以下にその概要をとりまとめましたので、畜産を活用した「ふれあい体験」を学校が、子ども達がどのように受け止めたのかをご理解いただければ幸いです。

また、わくわくいきいきモーモースクールにご理解・ご協力を頂いた畜産農家や関係機関の方に、紙面を借りてお礼申し上げます。

平成 20 年 2 月

やまぐち畜産ふれあい体験交流推進協議会
会長 藤井 朋子

目次

- 1 . 体験の様子
122 人の子ども達が体験した 4 つのメニューと子ども達の声
搾乳のまとめ
参加農家は給食でも子供たちと交流
- 2 . 子ども達・スタッフの反応
アンケート結果
体験前後の変化
スタッフの感想
- 3 . おさらい授業（参加農家の出前授業）
1 年生がもっと聞きたかったこと
学習発表会での発表の様子
- 4 . 取り組みまでの経緯
小学校での模索
支援体制の整備（関係機関、畜産農家、サポーター）
体験メニューの検討
- 5 . 具体的な準備
搾乳体験用牛の確保と衛生検査
搾乳指導者とサポート酪農家、搾乳キットの活用
酪農を知るコーナー
和牛の紹介
牛乳加工体験（バターづくり体験）
- 6 . 大嶺小学校の感想
1 年生、5 年生担任の先生、栄養教諭小泉先生
- 7 . 学校でのふれあい体験取り組みの可能性
学校関係者の意識
具体的な相談窓口

1. 体験の様子

わくわくモーモースクールへ参加したのは122名(1年生58名、5年生64名)です。今回は、4つのメニューを用意しました。当日の様子を子ども達の声と共に紹介します。

開会



あいさつ

大嶺小学校 林校長先生
畜産振興協会 案野専務理事



1年生代表も大きな声で意気込みを示してくれました。

体験の前に、アンケートを行いました。子ども達が期待した体験メニューは、以下のとおりです。

学年	1位	2位	3位	4位
1年生	加工体験 37%	乳搾り 37%	牛を知る 12%	牛に触る 5%
5年生	加工体験 64%	乳搾り 23%	牛に触る 6%	牛を知る 5%

加工体験はバター作りです。乳搾りもそうですが、具体的にイメージをしやすいものに興味があったようです。

搾乳体験；搾乳をする乳牛は秋芳町の土山牧場から来た「エバ」号です。



クラスごとにスタッフ紹介の後、県酪農乳業協会作成の搾乳キットで搾乳の練習を行いました。指導者は今井さんです。

感想；・・・ちしぼりゲームがおもしろかったよ。水がつめたかったよ。きもちよかったです。(1年生 男子)

練習が終わると、いよいよ本番です。NPO 法人きららの里スタッフから消毒や搾乳をする時の注意を一人一人行いました。



きららの里 上田講師が一人一人に搾乳のコツを教えました。

感想；・・・ちしぼりのやりかたがわかったです。またやりたいです。うしは、ちょっとすきだったけどだいすきになりました。(1年生 男子)



酪農家の藤井さんです。ふれあい協議会の会長もしていますが、今日は酪農家として搾乳技術を子ども達に伝授しました。

感想；・・・練習では10を越すことができたけど本物はあまりでませんでした。アドバイスをもらいやってみるとたくさん出てうれしかった。(5年生)



酪農を知る展示コーナー；牛と酪農を理解するために体育館に4つのブースを用意しました。



県畜産試験場の大石さんです。牛の等身大パネルやルーメンの模型を使って乳牛について解説しました。

感想；牛の胃ぶくろの数は、4つあることをまなびました。いままであまりきょうみがなかったけれど、きょうのふれあいで少しきょうみもちました。(5年生)

やまぐち県酪の岡田さんです。エバ号が朝食食べたものと同じメニューの飼料を同じ量だけ並べて説明しました。

感想；牛の食べものの量はハンパなく大きい(多い)のにおどろいた！(5年生)



防府市の酪農家 池田さんです。子牛用の哺乳瓶を説明しています。

感想；牛と人のちがいがとてもおもしろかった。牛も人と同じで、大切に、食べる時は残さず食べようと思った。命の大切さを感じた。(5年生 女子)

萩市の酪農家 水谷さんです。ミルカーについて説明しています。

感想；牛の赤ちゃんのミルク(乳)をわけてもらっているので大切に飲もうと思いました。きょうな体験ありがとうございました。(5年生 女子)



牛乳ができるまでは、県酪農乳業協会作成のDVDを視聴しました。

和牛とのふれあいコーナー；美祢市内の田邊牧場から、15ヶ月の「はるひめ」号を連れてきてもらいました。



田邊さんが和牛農家の仕事についてお話をしました。後にいるのは、美東町の和牛農家井上さんです。

一人一人和牛に触ります。

感想；つのは38度くらいと聞いてびっくりしました。とてもあたたかくきもちよかったです。(5年生)



和牛を測定する道具を紹介してもらいました。

感想；最初はいやだと思ったけど、さわったりすると命の大切さを感じて、かわいかった！！(5年生 男子)

農林事務所畜産部の職員が牛の測定を行いました。

感想；畜産試験場に行ったときに牛の回りにかこいがしてあったのでなんでかなぁ？と思いましたが、今日教えてもらってうれしかったです。(5年生)



美祢農林事務所畜産部の伊藤さんから、美祢市内で田邊さんの牛が放牧されている「山口型放牧」についても説明がありました。

バター作り体験コーナー；県酪農乳業協会がバター作り体験を行いました。



スタッフの方から、バター作りの手順を教わりました。

材料を入れて、後は頑張って振るだけです。

感想；ぎゅうにゅうとなまクリームでバターができるってびっくりしました。(1年生 男子)



なかなか固まらない児童もいました。

感想；牛乳で作ったバターとクラッカーがこんなに合うとはおもいませんでした。家でも作ってみたい(5年生)

作ったバターは、クラッカーに付けて試食しました。
スタッフが、牛乳とヨーグルト、マンゴーを使った「マンゴーミルク」の作り方も教えてくれました。



搾乳のまとめ；搾乳体験の後、残っている乳を後搾りします。その間、土山さんがエバ号の話をしました。



上田講師がリズム良く後搾りをします。

「シュッシュュツ」と勢いよく搾る酪農家の手元を、子どもたちは食い入るように見つめていました。(中央酪農会議・感動通信 Vol.12)

土山さんです。エバ号は、土山さんが山口県に来て酪農研修に入った頃からお話をしています。

14歳の「エバ」は長生きで、牛乳をたくさん出してくれたなどを話してくれました。



5年生の代表が、搾った牛乳を学校牛乳のビンに入れていきます。

子ども達が搾った牛乳と上田さんが搾った牛乳を合わせて48本になりました。

最後に、5年生代表から、モーモースクールに対してお礼の言葉をいただきました。

122人の搾乳体験にちょっとお疲れの「エバ」号。でも、土山牧場に帰った後も元気に過ごしていたそうです。



給食タイム；参加した畜産農家は、1年と5年の各教室に別れて、子ども達と一緒に給食を食べながら交流しました。



田邊さんです。子ども達の質問攻めにあっているようです。

スタッフの皆さんもこの日の給食をいただきました。



牛が帰るまでの間、ちょうど昼休みだったので、他の学年の子ども達も集まってきました。

興味津々の子ども達に対して、獣医さんでもあるスタッフから特別に牛の心臓の音を聞かせてもらいました。

牛が帰った後、家畜保健衛生所の獣医さんが入念に消毒をしました。



2. 子ども達・スタッフの反応

体験の後に、一番楽しかったことを選んでもらいました。

学年	バター作り	乳搾り	エサや道具を知る	和牛に触る
1年生	40%	49%	2%	5%
5年生	38%	49%	2%	8%

どの学年も乳搾りとバター作りが強く印象に残ったようです。別のアンケートで5年生に選択式でふれあい体験の印象を設定した質問から選んでもらいました。その結果は、温かかった(24.6%)、またしてみた(19.6%)、初めて牛に触った(14%)、「いのち」の大切さを感じた(11.7%)の順でした。自由に書いてもらった感想には、搾乳とバター作りだけでなく各体験についてのコメントが書いてありましたので、子ども達は様々な受け止め方をしているものの、一番印象に残ったのは、牛乳を搾る時の温かさだったようです。温かいのが意外だったということは、牛乳は初めから冷たいものと思っていたのかもしれない。

実際に牛に触り、搾乳体験で搾りたてのお乳の温かさを感じ、子牛のための乳を人がもらっていることを酪農家から聞くことで、命の温かさや食べ物大切さを感じてくれたようです。

体験前後の変化について、協議会会長であり酪農家である藤井さんにまとめていただきました。

アンケート調査(次頁図表参照)によると牛、牛乳、牛肉について、いずれについても程度の差はありますが、<好き>の児童の割合が増え、<嫌い>な児童の割合は減っています。

牛は間近で見ると、とても大きく優しい瞳をしています。性格は穏やかで、体温は人間より高いので非常に温かく感じます。また、実際に乳搾りをしてみて、コップ1杯の牛乳を搾るのも非常に時間のかかる骨の折れる作業である事がわかったと思います。

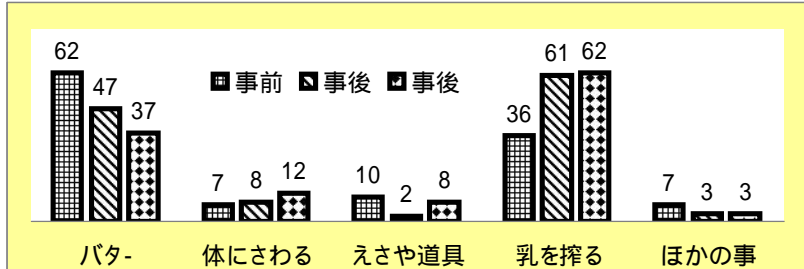
実際に牛を見て、触り、心音を聞いて乳搾りをして、「生きている牛の命」を子どもたちは自分の体全体・五感で感じとることができたようです。それによって、牛に対して「愛おしい」という感情が生まれ、さらにその牛の乳や肉を「いただく」ことで「生かされている自分の命」という学びが生じたのだと考えることができます。

人と人との結びつきもふれあうことで理解が深まるものですが、子どもたちは牛と交流、体験をしてふれあうことにより、「牛」、「牛乳」、「牛肉」を好きになっていきました。

牛が好き [好き+少し好き] 51% ▶ 80%
牛乳が好き [好き] 55% ▶ 60% (5年 39% ▶ 53%)
牛肉が好き [好き] 69% ▶ 77%

全体

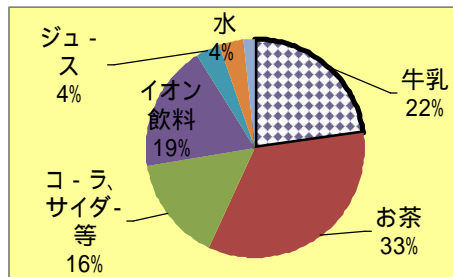
項目	事前	事後	事後
	やりたい	楽しかった	またしたい
バター-	62	47	37
体にさわる	7	8	12
えさや道具	10	2	8
乳を搾る	36	61	62
ほかの事	7	3	3
合計	122	121	122



事前ではバター-作りに関心が高かったが、体験が楽しかったのは搾乳が最多で、再体験希望も搾乳が最多

家でよく飲むもの

牛乳	51
お茶	77
コ-ラ、サイダ-等	35
イオン飲料	42
ジュ-ス	8
水	8
その他	4
合計	225

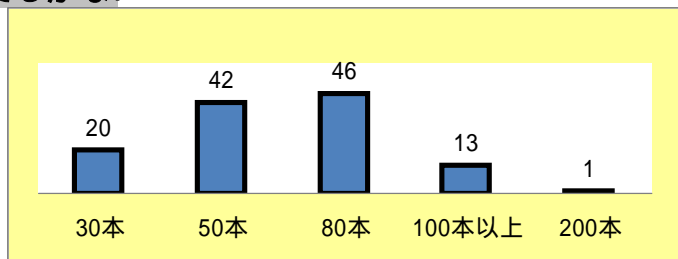


約1/4の児童が牛乳をよく飲むとしている。お茶1/3、炭酸+アルカリイオン水1/3

1頭1回で牛乳ピン何本のお乳かできるかな?

30本	20
50本	42
80本	46
100本以上	13
200本	1
合計	122

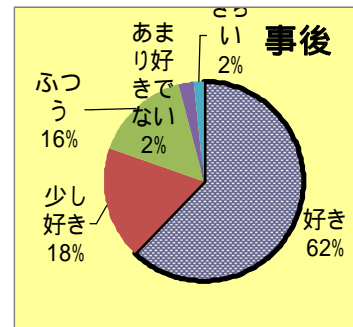
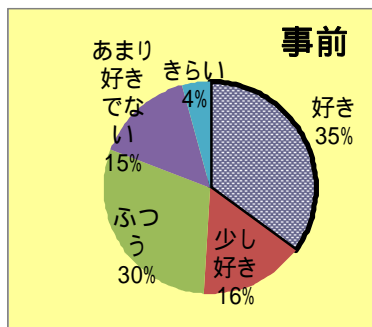
実際は48本



ほぼ正解の50本が1/3、約1/2が80,100,200本と予測した

牛について

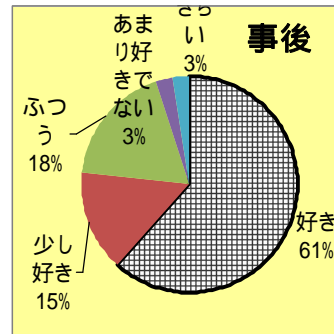
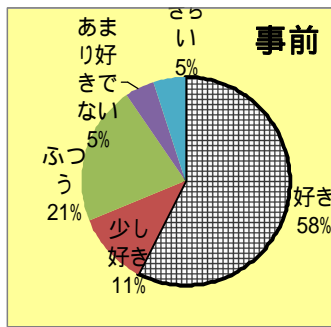
	事前	事後
好き	42	76
少し好き	19	22
ふつう	36	19
あまり好きでない	18	3
きらい	5	2
合計	120	122



体験後、顕著に牛が好きになった児童が増えている。きらい・あまり好きでない児童は減少した。

**全体
牛肉について**

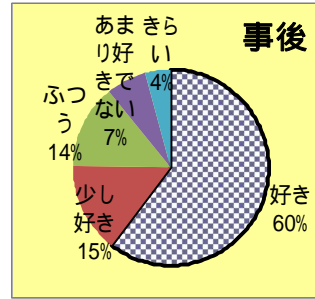
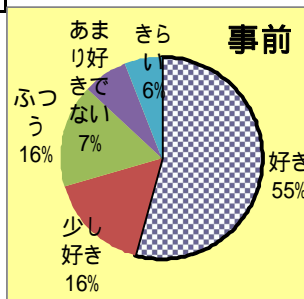
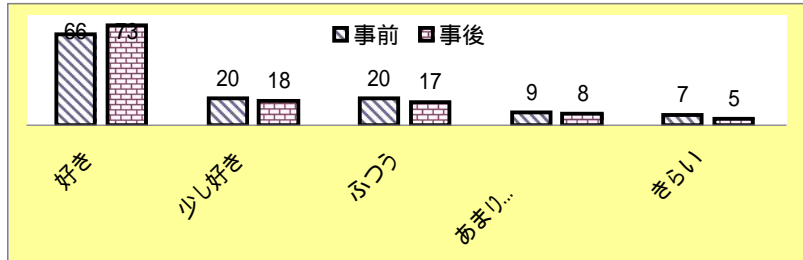
	事前	事後
好き	70	74
少し好き	14	18
ふつう	26	22
あまり好きでない	6	3
きらい	6	3
合計	122	120



体験後牛肉の好きな児童が増えた。きらい・あまり好きでないは減少した。

牛乳について

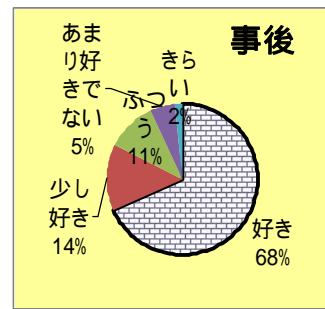
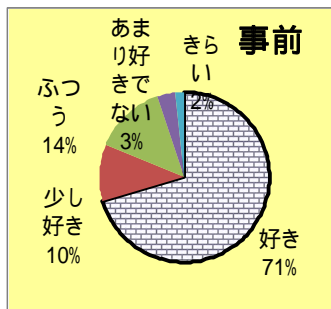
	事前	事後
好き	66	73
少し好き	20	18
ふつう	20	17
あまり好きでない	9	8
きらい	7	5
合計	122	121



体験後牛乳の好きな児童が増えた。全体で好き・少し好き+5人、きらい・あまり好きでない-3人である。

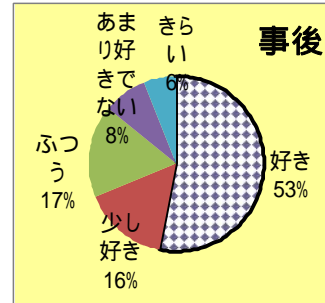
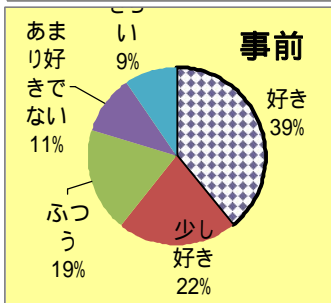
1年

	事前	事後
好き	41	39
少し好き	6	8
ふつう	8	6
あまり好きでない	2	3
きらい	1	1
合計	58	57



5年

	事前	事後
好き	25	34
少し好き	14	10
ふつう	12	11
あまり好きでない	7	5
きらい	6	4
合計	64	64



1年生は体験前から牛乳の好きな児童が81%で多く、体験後も変わらない。

5年生は体験後牛乳の好きな児童の割合が14%増えた。きらい・あまり好きでない児童の割合も20%から14%に減った。

参加スタッフの声

< 畜産農家から >

- 初めての取り組みで不安も大きかったが、実施の際は参加者が協力的で説明も上手だった。広く見ると教育現場、生産現場、行政機関にふれあい体験に対する認識の差が大きいことを感じる。
- 子供たちの笑顔にヤル気もらい、癒された。子供たちには体験により優しい心を持った人間に成長してもらいたい。
- 酪農家が単なる手伝いスタッフでなく、子供たちと直接関わり説明できたことは、酪農という職業をより実感できよかった。
- 児童たちはいっぺんにたくさんの事を学んだので大変だったのでは？もっとゆっくり児童たちと交流できたらよかった。
- 和牛の紹介ができてよかった。他の学年の子供たちにも触らせてあげればよかった。
- 酪農家という立場で、ただ牛乳を生産するのではなく多くの人に牛乳を通して生命をいただいている恵みと感謝のこころを伝えることができる素晴らしい機会であると思いました。

< NPO 法人 きららの里 >

搾乳体験を指導して・・・最初の経験である、学校での動物のふれあいで、和牛と乳用牛を展示他、食育の中での牛乳を搾る。実際の体験を通して畜産農家とのふれあいによって、大切にする意識を教えることは良かったと思います。その中でも、現在の畜産農家の生活など先生他、子供たちに分かりやすくグループでの話し合いの場で、牛乳については、乳搾り、一人一人がわずかな時間の体験の中で、白い乳を視（み）乳房に触れた感じを大事にしてもらいたい。（防府市 農業 上田朝生）

草原の中で牛の乳搾り・・・という枠にとらわれない教育が行われました。こんな光景これまでになかったのではと思う場所、学校の校庭に牛がやってきたのです。テレビの中や絵本の世界で一度は目にしたことある「牛の乳搾り体験」ですが、リアル体験を実現できたのは、児童だけでなく、畜産農家にとっても、とってもいい経験になったのではないのでしょうか？畜産農家、乳製品生産者、そして消費者が1つになり、大切なことを多く学ぶことが出来ました。私達、きららの里のメンバーは「いのちのきらめき」を多方面から子供たちと学ぶ活動をしています。また、牛を題材に「循環型農業」も実践して野菜を作ったり、安全・安心を守っていくにはどうしたらよいかを考えたりしています。

今回行った活動も、多くの畜産農家の方とお話しすることが出来、とてもいい時間を過ごすことができました。これからも、牛と仲良くそして、命の大切さを伝えて活動していきたいと思います。（きららの里 松永紋子・西山美貴）

< 県関係機関 >

子供たちが、牛を見つめる目は輝いていた。とても印象的だった。機会があれば、是非、農場に来て、牛や餌、搾乳の機械等を見たり、農家の声を聴いて欲しい。出前講座では感じられないものが必ずあるはず（流通企画室 小杉真樹）。朝一番、まだ小学生たちが登校中のグラウンドに、田邊さんが「はるひめ」をトラックから降ろした。その瞬間、遠巻きにトラックを見ていた子どもたちが、「はるひめ」の周りに驚きや好奇心を全身で表しながら集まって来た。私は、何より

も、朝一番のあの風景、雰囲気忘れられない。そして、「モーモースクール」を体験した小学生が、「エバちゃんの牛乳」と言って給食の牛乳を残さず飲むようになったという。この体験が子どもたちに与えた影響の大きさを実感し、学校で直接「子どもと牛」「子どもと酪農家」が触れあう機会を実現できたことは本当に素晴らしいことだったと思う。(畜産振興課 松村克彦)

ふれあい体験学習には和牛の体測補助として参加させていただいたため、全体を見ることはできなかったが、受講学年の1年生、5年生とも自分が想像していた以上に牛に興味をもっており、好感触であったと思う。昼休みには他の学年の児童も牛の側に寄ってきて、牛に触れており、牧場に行くこととはまた違った機会を作れて良かった。このような機会により、畜産が県民の身近なものとなり、畜産経営のしやすい環境、畜産の必要性が浸透して欲しいと思った。連れて行った牛もおとなしく、名前も小学生が親しみやすい名前で良かった。田邊氏、土山氏に感謝したい(下関農林事務所 森重大作)

分刻みのスケジュールの中、無事終了できて安心しました。私は牛の体の説明を担当しましたが、資料やパネルの説明だけだと、堅苦しくなるかもしれないと不安でした。そこで、大きさを把握しやすいように、牛の胃袋の模型を持って行ったところ、その大きさに素直に驚いてくれて、嬉しく感じました。子供達の反応が素直な分、質問も大変厳しく「この牛は結婚しているの?」と聞かれたときには答えにつまりました。今回のふれあいで、私も多くの反省点がありますが、またこのような機会があれば是非参加させていただき、家畜や畜産物への理解を深めるためのお手伝いをさせていただければと思います(農林総合技術センター畜産技術部 大石理恵)。

搾乳体験コーナーの司会進行を担当したが、順番待ちの時、子供をかまうのが好きな私はつつい調子に乗り、数回こんな光景が“「牛乳は好き?」との問いに「嫌い」、「じゃあ搾乳はなしね」に対し「今日から頑張って飲むから搾乳さして!」”その後、この児童たちが約束を守ってくれていれば、お手伝いをした価値があるのだが?(田布施農林事務所畜産部 古澤 剛)

3 .おさらいの授業 ; 1年生からもっと話が聞きたいと要望があり、土山さんが教室にお話に行きました。



モーモースクールから 2 週間後の 10 月 31 日に土山さんが 1 年生の教室の教壇に上がりました。

写真を見せながら、酪農の仕事についてお話をしました。

土山さんは後日「最近産まれた子牛(雌で保留)に名前を考えてもらえないかと宿題を出しました。

給食の小泉先生が土山さんの話の後に牛乳の栄養分についてお話をしました。
手に持っているのは、カルシウムのカルちゃんです。



さらに 2 週間後の 11 月 17 日は、大嶺小学校の学習発表会です。

1 年生のタイトルは「モーモースクール」。モーモースクールの様子をしっかり整理し大きな声で発表していました。



平成 20 年 1 月 15 日。大嶺小学校に再び牛がやってきました。土山さんが子牛を育成牧場に行く途中に名付け親の 1 年生に顔を見せに来ました。

1 年生が選んだ名前は「ミルク」です。これからどんどん大きくなって、また帰る時に顔を見せてくれるといいですね。



4. モーモースクール取り組みの経緯

ふれあい体験協議会は、年2回開催し、様々な立場の委員からふれあい体験についての協議を行ってきました。その中で、小学校の栄養士の立場である小泉委員は、これまでの食育を実践した経験から、「ふれあい体験を通して、子ども達が変わる。」ことを確信していました。

一方、協議会会長でもある酪農家の藤井さんは酪農教育ファーム認定牧場でもあり、九州で自身も参加した「モーモースクール」の効果を協議会で紹介し、牧場に行くことのない多くの児童ができる一つの体験手段への模索として実践することとなりました。

小泉委員は、自身が勤務する美祢市立大嶺小学校でモーモースクール受け入れについて説得を重ねるとともに、協議会では支援体制の整備のため、関係機関と調整を行いました。特に最近は、このような体験学習のために県など公共機関から牛を借りることが難しいため、搾乳体験用の牛を提供してくれる酪農家への依頼は重要な課題でした。

幸い、平成19年2月に行われた酪農家の若手が集まる研修会において、協議会事務局がふれあい体験の取り組み概要を説明し、消費者、特に小学生に生産現場を見せることの重要性を紹介したところ、今回参加してくれた水谷さんや土山さんからは、ふれあい体験への支援希望がありました。土山牧場には、平成19年末頃には廃用予定の搾乳体験に使える牛「エバ」がいたことから、土山さんの協力を得ることができました。

また、大嶺小学校の体験希望学年が2学年4クラスあり、100名を超える児童数であることから、一クラス単位で体験できるメニューを検討しました。搾乳体験を基本に、酪農乳業協会からは牛乳加工体験の共催依頼があり、併せて酪農の仕事、乳牛のことを勉強するコーナーを設けることにしました。小学校からの希望であった子牛については、美祢市内の和牛農家、田邊さんの牧場に人工哺育で育てられた人に馴れた育成牛「はるひめ」号があり、快く協力してもらうことになりました。

これらをベースに以下のメニューとしました。

<搾乳体験コーナー>

山口県酪農乳業協会持参の搾乳キットで練習後、2列で搾乳体験。

<酪農を知る展示コーナー>

乳牛の不思議をパネル等で説明。搾乳関連道具を見せながら酪農家が牧場の仕事説明、エバ号の飼料説明。牛乳工場の仕組み等をDVDで紹介。

<和牛とのふれあい体験コーナー>

和牛を知る（牧場の仕事、放牧のこと）。和牛に触る（体測、心音）。

<牛乳加工コーナー>

バター作り体験、牛乳を使ったジュース試飲

さらに、当日の搾乳量を学校の牛乳ビンで量り体感することと、参加児童と畜産農家が給食を共にすることで交流することを加えて、「わくわくいいきいきモーモースクール」を企画しました。

5 . 具体的な準備 ;

- 牛の衛生状況確認 ; 土山牧場の搾乳牛 (エバ号 ; 1993/6/9 生まれ、H18.7.28 9産目分娩) と田邊牧場の育成牛 (黒毛和種 はるひめ号、2006 年生まれ) については、美祢農林事務所畜産部の協力により、中部家畜保健衛生所において病原性大腸菌 O - 157 検査を実施し、安全性を確認。
- 搾乳牛保定枠 ; NPO 法人きららの里が削蹄用枠を保定枠とし、児童誘導の道具を準備。
- 当日の衛生対策 ; 牛到着時の洗い場、糞の除去用一輪車、スコップの確認 (大嶺小学校)、体験終了後の砂場消毒 (中部家畜保健衛生所)
- 酪農関係説明パネル ; ふれあい協議会作成ポスター、県酪農乳業協会資料、酪農教育ファーム資料。
- 肉牛関係パネル ; ふれあい協議会作成ポスター、和牛の放牧について紹介するポスター (美祢農林事務所作成)。
- 参加者の衛生関係 ; 各手洗い場。搾乳コーナーには、前後の消毒用洗面器設置。
- 牛乳ができるまで ; 県酪農乳業協会制作の DVD で県酪農乳業工場の様子を視聴。
- 搾乳キット ; 県酪農乳業協会持参の搾乳模擬体験キット。
- 搾乳牛が朝食べてきた飼料 ; 県酪指導員が、土山牧場から「エバ号」に給与する飼料と同じ品目・量を準備。
- 酪農家の機器 ; バケットミルカー、牛の哺乳瓶など、参加酪農家が持参。
- バター作り ; 酪農乳業協会は、子どもが持って振りやすいシェーカー選定。事前に固まりやすいクリームの割合等を確認。

6．大嶺小学校の反応

<担任の先生から>

- 1年生は体験に加えて土山さんとの交流も継続している。子供たちは牛＝エバと認識しており、牛乳を飲む時は「エバ、いただきます。」となっている。また、給食配膳中や食事中に牛乳をこぼした時には「エバに申し訳ない。」といった声上がる。牛乳を残すことがほとんどなり、現在も継続している。
- 命と関わる体験ができたことは大きい。授業では、生活科、図工、道徳などで振り返りを行ったが、直接牛に触り、いろいろな大人から話を聞いたので実感がある。土山さんの話を20分間じっと聞くことができたことにも驚いた。
- 準備してもらったところが多いので、それほど負担は感じなかった。酪農を知るコーナーは全校の子どもたちに見せることも可能であると感じた。
- 自分の体で感じた牛や牛乳のあたたかさが、子どもたちの心に強く残っていた。学習した牛乳だけでなく、他の食材にも関わっている人の苦労やそのものの命があることまでも考え、給食を残さず食べようと頑張れるようになった。

<栄養教諭 小泉先生から>

子どもたちは、日頃何気なくいろいろな食べ物を食べています。そこで、“食べ物は全て命があり、命をいただいて、自分の命を育てている”ことを子どもたちが肌で感じてほしいとの思いからこの体験学習を実施することにしました。

自分の肌で感じた牛や牛乳のあたたかさが、子どもたちの心に強く残りました。牛乳や牛肉だけでなく、一つ一つの食べ物は多くの人の苦労といろいろな人々が関わって作られていることや、私たち人間は他の動植物の命をいただいて生きていることなどを知り、残さず食べようがんばれるようになりました。この体験学習で育まれたものは子どもたちにとって大切な「宝物」であると感じました。これからもこの思いを忘れず持ち続けて心豊かに成長してほしいと願っています。

また、今回は1年生と5年生が参加したのですが、このような有意義で素晴らしい体験を今後はできるだけ多くの児童生徒に体験させたいと強く感じました。

このような学習ができたのは、社団法人山口県畜産振興協会をはじめ、農林事務所畜産部、県酪農乳業協会、畜産農家等の方々が密に連携し、子どもたちがいろいろな体験ができるよう一体となって取り組んでいただいたおかげによるものと深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

7. 学校でのふれあい体験取り組みの可能性

学校関係者の意識・・・平成17年度ふれあい協議会の報告書に周南市立福川小学校藤井幸司先生から特別寄稿を頂きました。「地域と連携して子どもたちの温かい心を育てる」という和田小学校勤務時代に実践された牧場とのふれあい体験の記録です。寄稿頂いた際に、学校関係者へのメッセージを頂きました。モーモースクールとは違い、子どもたちが牧場へ出向くための心得として、協議会としても大切なメッセージだと感じており、ここで紹介します。

教育現場の先生方が考えなければならないこと

- 何を目的として、酪農体験学習をさせるのかをまず、教師自身が明確にしておくことが大切である。牧場へ行けば何かをさせてもらえるだろうという安易な考えで学習を実施することは牧場の方にも失礼であるし、牧場の方自身も「どんな場を提供したらよいか」という点でも迷われることだろう。
- 保健面、安全面での問題をクリアしておきたい。特に学級内にアレルギーを持っている子どもがいる場合は、保護者とよく相談をして実施する必要があると考える。
- 学校内での理解をきちんと得ること。学習の主旨を先生方や保護者にも説明し、目的や方途をきちんと共通理解しておきたい。
- 学習の進め方(地域に密着した牧場で長時間に渡って実施するパターン、遠足や修学旅行で実施するパターン)について、しっかり研究しておく必要がある。教師側が具体的な活動計画を立案し、牧場の方と綿密な打ち合わせを事前しておくことが大切である。
- ウシとのふれあいはばかりに目を奪われがちであるが、一番重要なのは牧場で働くおじさんやおばさんの生き様である。ウシたちへの愛情や仕事への責任感、誇り等をしっかり感じ取らせたいものである。見学の事前指導を生徒にきちんと徹底させておくこと。牧場の方への礼儀面やウシたちとの接し方など・・・。

具体的にふれあい体験の相談ができる関係機関。

今回のモーモースクールの企画調整を行った「やまぐち畜産ふれあい体験交流推進協議会」事務局をしている社団法人山口県畜産振興協会では、これまでの体験交流実績や体験のサポートなどから「ふれあい体験」が子どもたちへ与える<教育>や<癒し>としての機能は、社会的に求められてくると感じています。牧場は<生産・加工の場>だけでないことを認識してもらうことは、畜産への理解、畜産物消費拡大にもつながります。そのためには、そのような場を提供できる牧場や説明できる機会が必要です。

ふれあい協議会は、事業実施期間終了の平成19年度で一応の役目を終えますが、畜産振興協会は、これまでのノウハウを活かして、各種関係機関と連携し、「ふれあい体験」を推進します。ふれあい協議会の構成機

関である県関係機関や県酪農乳業協会においても「ふれあい体験」の重要性は理解していただいていると考えていますので、畜産振興協会は学校等からの相談に応じて調整を図ります。中央段階では、食育や畜産を含む農業体験についての補助事業もあると思いますので、関係機関が連携して、利用できる団体が補助を受け、活用することも可能だと考えています。内容に応じて、参加者にも一部負担をしてもらうこともありますが、それだけの価値はあると信じており、教育機関、生産現場、関係機関一体となって取り組めるよう調整支援していきたいと考えています。

スタッフ名簿、関係機関連絡先等

わくわくいきいきモーモースクール in 大嶺小学校 2007.10.16(スタッフ名簿)

氏名	所属	備考1
上田 朝生	NPO きららの里	講師
西山 美貴	NPO きららの里	サポーター
松永 紋子	NPO きららの里	サポーター
土山 真作	酪農家	秋芳町
土山 康子	酪農家	秋芳町
田邊 一郎	肉用牛農家	美祢市
田邊 雅子	肉用牛農家	美祢市
井上 幸子	肉用牛農家	美東町
水谷 信義	酪農家	萩市
池田 英雄	酪農家	防府市
藤井 朋子	酪農家	周南市・協議会会長
岡田 篤志	県酪農農業協同組合	
今井 茂明	県酪農乳業協会	協議会委員
山下 洋子	県酪農乳業協会	
福永 輝美	県酪農乳業協会	
菅田 智子	県酪農乳業協会	
大石 理恵	県農林総合技術センター畜産技術部	
古澤 剛	田布施農林事務所畜産部	協議会委員
藤田 亨	山口農林事務所畜産部	協議会委員
柳澤 郁成	山口農林事務所畜産部	
伊藤 智	美祢農林事務所畜産部	
森重 大作	下関農林事務所畜産部	協議会委員
森田 正浩	萩農林事務所畜産部	協議会委員
小杉 真樹	県流通企画室	協議会委員
松村 克彦	県畜産振興課	協議会委員
松原 明子	中央酪農会議	酪農理解促進室
大島 達夫	中国生乳販売農業協同組合連合会	業務部業務管理課
案野 一夫	(社)山口県畜産振興協会	専務理事
山崎 真久	(社)山口県畜産振興協会	事業指導部長
清水 誠	(社)山口県畜産振興協会	ふれあい協議会事務局
石野 芳江	(社)山口県畜産振興協会	
竹岡 綾子	(社)山口県畜産振興協会	
中村 律子	(社)山口県畜産振興協会	

山口県農林水産部

流通企画室	〒753-8501 山口市滝町 1-1 TEL 083-933-3556 FAX 083-933-3359
畜産振興部	〒753-8501 山口市滝町 1-1 TEL 083-933-3430 FAX 083-933-3449

山口県内農林事務所畜産部・農林総合技術センター

岩国農林事務所畜産部	〒740-0016 岩国市三笠町 1 丁目 1-1 (岩国総合庁舎 4 階) TEL 0827-29-1564 FAX 0827-29-1595
田布施農林事務所畜産部	〒742-0031 柳井市南町 1-10-3 TEL 0820-22-2416 FAX 0820-22-2453
周南農林事務所畜産部	〒745-0004 周南市毛利町 2-38 TEL 0834-22-0660 FAX 0834-22-0938
山口農林事務所畜産部	〒754-0897 山口市嘉川 671-5 (分庁舎) TEL 083-989-2517 FAX 083-989-2518
美祢農林事務所畜産部	〒759-2212 美祢市大嶺町東分 3449-5 TEL 0837-52-1070 FAX 0837-52-1689
下関農林事務所畜産部	〒750-0421 下関市豊田町殿敷 1892 TEL 0837-66-1018 FAX 0837-66-0239
長門農林事務所畜産部	〒759-4401 長門市日置町日置上 1372-2 TEL 0837-37-2155 FAX 0837-37-2590
萩農林事務所畜産部	〒758-0061 萩市椿 3621-1 TEL 0838-22-5677 FAX 0838-22-2285
農林総合技術センター 畜産技術部	〒759-2221 美祢市伊佐河原 1200 TEL 0837-52-0258 FAX 0837-52-4832
農林総合技術センター 農業研修部	〒747-0004 防府市牟礼 318 TEL 0835-38-0510 FAX 0835-38-4115

山口県内畜産関係団体

社団法人 山口県畜産振興協会 (ふれあい協議会事務局)	〒754-0002 山口市小郡下郷 2139 県 J A ビル TEL 083-973-2725 FAX 083-974-1030 HP http://yamaguchi.lin.go.jp/fureai/index.html
山口県酪農乳業協会	〒750-0324 下関市菊川町大字久野 556-3 TEL 0832-87-1711 FAX 0832-87-1713

山口県内ふれあい体験支援組織

NPO法人 きららの里	〒759-2221 美祢市伊佐町河原 TEL 0837-53-0500 FAX 083-974-1030 HP http://www.socio.gr.jp/kirara/
-------------	---

< 作成・編集・問合せ先 >

社団法人 山口県畜産振興協会 (やまぐち畜産ふれあい体験交流推進協議会事務局
清水誠)